

資料

十四世紀末の一商業書簡について

井口大介

はじめに

この書簡は、1390年11月24日付をもって、Damasco (=Damascus) に住む Andrea Venier が発し、同年12月25日、宛名人たる Venezia (=Venice) の人、Nicolò da Pesaro が受けた、単葉の、商業通信文であって、Washington, D. C. の Smithsonian Institution が、その所蔵する浩瀚な Venezia 文書の増補分として、1969年末に入手したものである。

たまたま、筆者が1970年1月 Smithsonian の歴史・技術博物館、郵政史室 (Division of Postal History, Department of Applied Arts, Museum of History and Technology, Smithsonian Institution) において研究に従事中、この書簡が新規収集品として登録のため、同室に保管されていたことから、直接手に取って、仔細に被見する機会を得たことは、まことに倖いであった。かねてより、古代・中世を通じての書信の成立とその発達の問題を研究領域のひとつとしてきた筆者にとって、この年代における書簡の形状・構成・書式はもとより、その内容に対しても、深い関心と興味を抱かずにはいられなかったのである。

この書簡は、その保存状態がきわめて良好であって、これを手にしたとき、悠久600年に近き歳月を経過したものとは、到底、信じられぬほどであり、そ

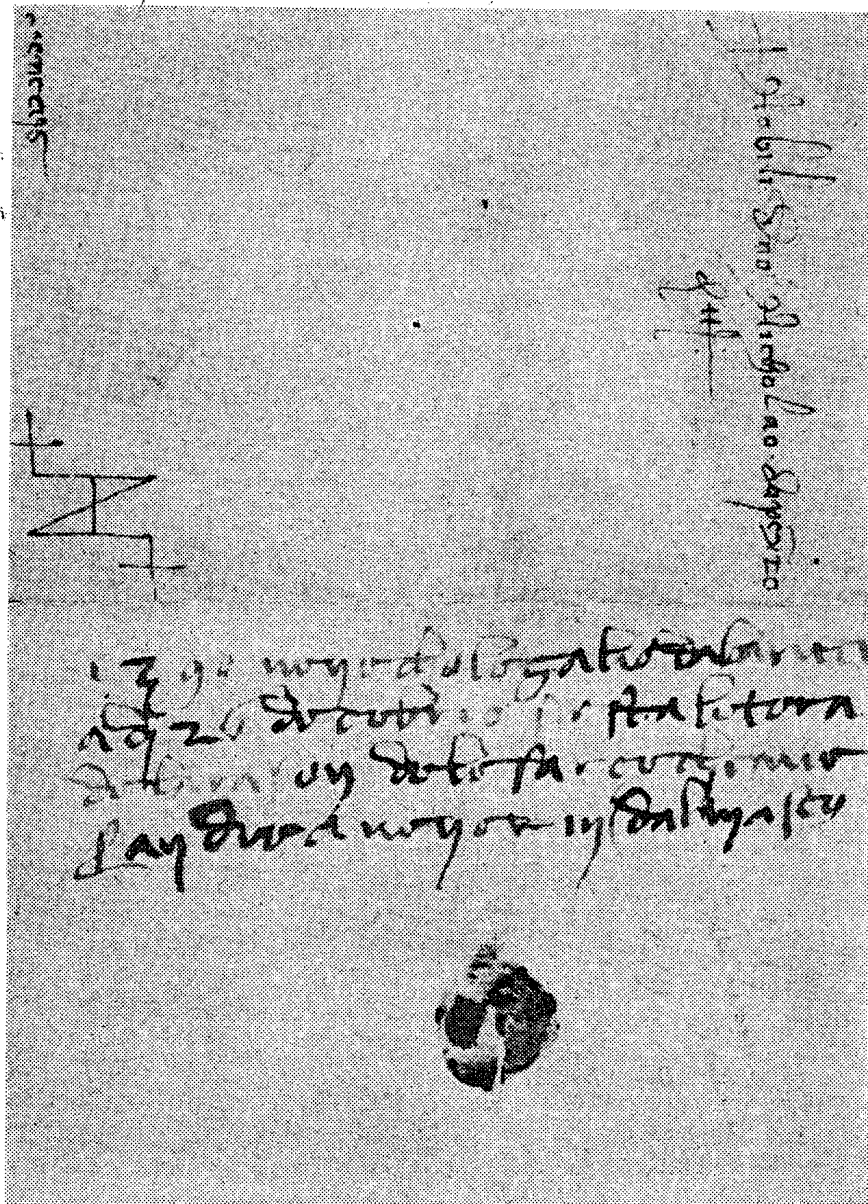
の本文および各部に誌された手蹟は、まことに鮮明であって、格調ある書字の行間には、いまもなお、署名者の生気が脈々と躍動しているかのごとき、強烈な印象を受けたのであるが、そこにはまた、なにかしら、一種の感動をさえも禁じ得なかったことである。

さりながら、中世イタリア語で綴られたその文面と内容については、当然のことながら、筆者には早急に読解することが困難であり、とりあえず、その精密な原寸大写真の作製を許可してもらうことをもって、満足しなければならなかったが、その後、郵政史室の審査官補 Scheele 氏 (Mr. Carl H. Scheele, Associate Curator/Supervisor, Postal History Division) の好意により、この書簡の文字を読解・校訂した結果と、その現代語訳文との提供を受け、これを利用することができるようになった。Smithsonian の依頼に応じて、その校訂に当たったのは、Morozzo della Rocca 氏であり、両氏に対し、ここに衷心より謝意を表す。

この書簡は、様式的には中世における欧文商業通信文の一好例であるとともに、また、文面の内容からしては、14世紀末葉における Venezia と Damasco との交易について、さらには、当時の東西貿易に関する環境と事情についての、ひとつの資料を加えることになろうかと考え、ここに若干の私見を加えて、その概要を紹介する次第である。

1. 形 状

用紙の寸法は、左右：9 inch (22.86cm)，天地： $11\frac{3}{4}$ inch (29.845cm) である。これは、今日欧米で使用されている代表的な書信用紙との規格とおおむね一致する。ちなみに、これらの諸寸法を比較してみるならば、次表のようになる：



表面には、1行の Inside Address, 長い1行の Date Line に続いて、Run-in の Salutation を含む24行の Body of the Letter, 最後に2行の Signature Section が、かなりの細字でぎっしりと書き込まれている。書体もよく統一されており、なによりも 行間の間隔の均一なことは、よほどこの種書簡の執筆に練達した人の手になることを見せている。語句を訂正・抹消した箇所はひとつもなく、僅かに後からの挿入部分が Letter Body の4行目に見られるが、これとても、文意を一層明瞭にさせるための補足説明を加えた3語が、

行間に手ぎわよく誌されており、もとより不注意の所為ではなく、かえって署名者の周到な配慮のほどをうかがわせている。

24行からなる Letter Body は、5の Paragraphs に分たれ、それぞれの行数は：4行、9行、6行、4行、1行、である。Paragraph の初行を Indent することはなくて、用紙の左端よりおよそ $\frac{1}{2}$ inch (1.27cm) の Margin をあけて同じ位置から書き出す、いわゆる、Block Style を取っている。右端は、Margin をのこさずに、紙幅いっぱいを使っている。

裏面には、用紙の長辺を2つ折りにした左半分の上部に、敬称を添えた受信人の宛名を書き、下部の左に発信地名を誌し、下部の右に発信人の商標を描いている。このことから、この書簡は2つ折りにして托送されたものであることを知るのであるが、封筒あるいは文篋のような外被をどのように用いたか、あるいは、封緘を施したかどうかについては、審らかでない。

裏面の右半分には、折り目に沿った部分に、受信人の手による4行の覚え書記録が誌されており、そのことから、この書簡の到着した日付をも知り得るのであるが、同時にまた、14世紀の Venezia において、組織的な文書管理と記録の保存・整理が、すでに行われていたことを推定させるのである。

2. 内 容

Morozzo della Rocca 氏による現代語訳文は、次の通りである：

TRADUZIONE IN LINGUA MODERNA

Per il signor Nicolò Da Pesaro.

†In nome di Dio e di sua Madre. 1390 addì 24 novembre in
Damasco.

†Riverisco il carissimo maggiore (cioè persona più anziana). Da parte del Console (veneto in Damasco) mi son state consegnate alcune cose di vostra spettanza, come qui sotto vi dirò, le quali dianzi erano affidate al signor Rosso Marin: Saie (panni sottili) balle due contenenti 75 pezze; inoltre, e queste le mandavate con le galee (di Beruto-questo era uno dei viaggi annuali delle galee da mercato di proprietà della Repubblica) al signor Cristoforo Diedo, una balla di panni di Firenze con 7 pezze ed una balla piccola (torsello) con 25 pezze di velluti di seta, delle quali cose io dovrò ritirar il miglior utile possibile, come certamente procurerò di fare considerando il parentado che c'è tra noi, la rivernza che vi debbo, e l'amore che porto a mio suocero (questi doveva appartenere alla famiglia Storlado, Andrea Venier, che scrive la lettera, sposò una Franceschina Storlado) sicchè agirò come per le cose mie proprie. Ora vi dirò quanto ho fatto fino ad ora. Come prima cosa ho ventute le due balle di saie, una per 70 ducati, l'altra per ducati 71 ogni pezza e vermente bisognava che non attendessi a venderle perchè la stoffa cominciava a tarlarsi. Tu desideravi che con i denari ricavati da tale vendita io comperassi galenga o cannella di buona qualità, ma queste spezie non si trovano, sicchè per mandarvi i vostri soldi con le galee (di Beruto, che tornano a Venezia) ho comperato 215 rotoli di pepe (un rotolo di Damasco=Kg. 2,55) che ho pagati 1975

ducati, ed ho subito inviati alla marina (ossia Beruto). Dei panni avrei potuto ricavare mille ducati e qualche cosa di più (in totale, "de la peza" è un lapsus calami) ma poichè voi dite che vi costano soldi 33 al braccio (il braccio di lana veneziano = metri 0,68339) non mi è parso opportuno di venderli; vorrei ottenerne 1200 ducati (essendo la pezza di 40 braccia si ottiene $33 \times 40 \times 7 =$ soldi di grossi 9240 = ducati 924).

E veramente se i panni verdi fossero un poco più chiari penso che subito li si venderebbero bene; quelli di color grigio (beretin) non incontrano il gusto di questa piazza; penso di venderli a scampoli, non a pezza intera. Sarebbe vostra intenzione che con i denari riscossi io acquistassi verzi di buona qualità almeri. Con il favore di Dio questo si potrà fare all'arrivo della carovana che viene dal Caravanserraglio (Bagdad) che ne conduce assai. Quanto ai velluti, sono roba cattiva e non si troverebbe di venderli a contanti, converrà accettare qualunque baratto, ma farà come di cosa mia. Con il viaggio di queste galee (le galee di Beruto; poi i mercanti giun gevano a Damasco) si sono fatti degli affari difficili e ciò è occorso perchè sulla piazza si trovano poche spezierie giacchè la carovana di Bagdad non è ancora giunta e tarderà ancora un mese; e ciò ha ingannati tutti i mercanti. Il pepe è stato comperato da ducati 1900 a 2000 (il cantaro - quello di Damasco = 255 Kg.), lo zenzero sei volte di più, i garofani ducati 61 o 62, le noci moscate ducati 18; gli zuccari hanno i soliti prezzi; gli incensi di Alessandria valgono ducati 1550. Delle altre cose potrete vedere da un listino di prezzi (corso) che vi mando. Le perle costano il 10 o 15 % di più che valessero prima dell'arrivo delle galee. Di pepe e zenzero vi è piccola quantità e viene da Alessandria (cioè abbandona la rotta più favorevole per essere negoziato su una piazza dove, per

il ritardo della carovana i mercanti veneti non trovano facile reimpiego) e costa caro per l'ulteriore viaggio. Sarete avvertito delle quantità (quando arriverà la carovanna). Le notizie di Damasco sono come avrete saputo dal signor Michele Durazin che Mentas (questo è un saraceno governatore) è partito da Aleppo e si reca alla regione di Malitie (Malatiah, capitale della piccola Armenia). Tutti questi paesi ubbidiscono al Sultano. La strada da qui ad Aleppo è buona, come le altre, e ciò giova ai commerci, sicchè con la grazia di Dio questo paese è tranquillo. Non ho altro da dirvi. Rimango pronto al vostro comando. Che Dio vi guardi.

Andrea Venier de fu signor Almorò vi si raccomanda.

Atergo si trova l'indirizzo: Sia data al nobile signor Nicolò Da Pesaro in Venezia, accompagnato dal segno mercantile del Venier nel quale si riconoscono le sue iniziali tra due crocette, e la nota (di mano del Da Pesaro) a riguardo del ricevimento. La lettera giunse con le galee di Beruto il 26 dicembre. Questa lettera appartiene alla resa dei conti che debbo avere per ciò che di mio ha Andrea Venier in Damasco.

この della Rocca 氏訳を底本としての邦訳は次の通りであるが; 原文における Paragraphing に加えて, 内容のうえから, さらに節を設けたこと, および訳文における Punctuation は原文のそれと必ずしも一致していないこと, を申し添えておきたい. なお, () 中は della Rocca 氏の注釈による部分を示し, [] 中は読解の便を考えて筆者の加えた補足的説明を表わしている:

Nicolò da Pesaro 殿

†主と聖母の御名により、1390年11月24日、Damasco にて。

†拜啓、

(当地駐在の Venezia) 領事殿を通じ、先般 Rosso Marin 氏に委託されおりました貴下所有の商品まさに受領いたしました。明細は次の通りであります：

あや絹布地 2 梱 計75反入り。

なおまた、Galee 船便 (Galley 船、ここでは Beruto = Beirut への Galley 船団のことであり、Venezia 共和国より毎年定期的に出航した商船隊に属する) にて Cristoforo Diedo 氏あて送付されし Firenze 織絹布地 1 梱 7 反入り、ならびに、絹天布地 1 小梱 25 反入り。

以上、まさに受領いたしました。

上記商品につきましては、これより能う限りの利潤をあげるべく存じおります。貴下ご一族と当家との昨今の間柄はもとより、敬慕する尊台のおんため、さらにはまた、わが岳父 (Andrea Venier の妻 Franceschina は Storlado 家の出であるから、この岳父は Storlado 家に属する何人かにあたることになる) への親愛の情を思えば、もとより誠心の努力をつくす所存であります。従いまして、手前どもみずからの商品といささかも変ることなく、相計らい、取扱わせていただきます。

まずもちまして、上記あや絹布地 2 梱のうち、1 梱分は 1 反あたり 70

ducati, 1 梱は1 反あたり 71 ducati にて, それぞれ売却いたしました。実を申さば, 少々品傷みの生じはじめましたものから, やむを得ませず, 早急に処分いたしました事情, なにとぞご諒承くださいませ。

貴下よりのご指示には, 当布地販売代金をもちまして, 良質の galenga または cannella [cinnamon] を購入すべしとの由でございましたが, これ等の香辛料は, 現在当地にては入手が叶いませぬ。貴意のごとく, 復便 Galee 船に托しますため, 布地代金にて, 胡椒 215 rotoli (重量単位: Damasco の rotolo は, 2.55Kg に相当する) を購入のうえ, 早速船積みの手配をいたしおきました。代金 1975 ducati は支払い済みであります。

次に, Firenze 織絹布地につきましては, 一括 1000 ducati を若干上回る価格にての引合いがございましたが, [貴地での] 元値 ell (長さの単位: Venezia の ell は0.68339m に相当する) あたり 33 soldi なることを承りおりますので, この金額にてはご損にも相成るやと存じ, 売り控えおきました。当方にては, なるべく 1200 ducati 程度にて売却いたしたく, 買手を求めおります。(1 反は長さ40 ell, この1 梱は7 反入りであるから, Nicolò da Pesaro の示した ell あたり 33 soldi の単価にそれぞれを乗じて: $33 \times 40 \times 7 = 9240$ soldi = 924 ducati が元値となるわけである。) なお, このうち緑色布地分は, その色合い今一段と淡かりせば, 早速にも上値にて売れ先これあるべく存ぜられますが灰色布地分につきましては, その色合い当地の嗜好に叶い申さず, よってこの分は1 反売りを見合わせ, 寸法売りにて小口に販売いたすべく考えおります。上記商品の売上げ代金をもちまして, 良質の Verzi almeri [この香辛料については, その品名を審らかにしない。] を購入されたき由; この件, 倅いにも神のご加護をもちまして, 近日到来の Caravanserraglio [=Caravanserai] (Bagdad) よりする隊商当地に安着の暁には, 貴意に副うべく存ぜられます。該隊商はこの種商貨を大量に運搬いたし参る例であります。

次に、絹天布地のことですが、この分品質も芳しからず、当地にての通常の販売は、まずもって見込みございませぬ、適当なる商品との物々交換を通じ処分いたす方がよろしきやと考えおりまするが、この場合におきましても、もとより誠心の努力をいたしますことをお約束申し上げます。

今次商船隊来航時には、物々交換につきましても、なかなか難しうございましたが、その故は、Caravanserraglio よりの隊商到着このところ一兩月遅延いたしおりますものから、当地にて香辛料の類はいたって品薄の様を呈しおることにあります。かくて (Galee 船隊にて Beruto に至り、それより当地 Damasco に到着の Venezia) 商人のすべてが、不実なる商談に欺かれ辛き目を蒙りたるほどにてございます。

香辛料時価は：胡椒 1900 ないし 2000 ducati (単位は 1 Damasco cantaro, すなわち 255Kg あたりの価格); Zenzero [ginger] はその 6 倍; garofani [clove] 61 ないし 62 ducati; noci moscate [nutmeg] 18 ducati; と高騰いたしおります。zuccari [この香辛料も、品名は不詳である.] は値動きなきも; Alessandria incensi [Alexandrian incense] は実にその値 1550 ducati に達しました。なお、その他商品につきましては、別紙価格表にてご承知くださいませ。

真珠の価格は、商船隊来航前の 10 ないし 15 per cent 高となりおります。胡椒および zenzero [ginger] につきましては、[目下当地にては] まこと品薄にこれあり、加えてその Alessandria よりの船載品なることから (Caravanserraglio [=Bagdad] よりの隊商到着遅延のため Damasco における Venezia 商人たちの買い注文に応じ、通常の経路をはずしたこと) 運賃諸掛りを乗せて、一層の高値を唱えおる次第でございます。今後の市況につきましては (隊商到着以後) 追ってお知らせ申すべく存じ上げます。

さて、Michele Durazin 氏より既にお聞き及びかと存じられますが、当地 Damasco の近事といたしましては、このたび (Saracen 総督) Mentas 氏 Aleppo を発し郷里 Malitie (小Armeniaの首都) の地に赴かれしことくらいにてございます。この地すべて Sultano [=Sultan] の治下であり、往来無事、当地より Aleppo に至る街道も通行支障なきこと、われらかなりわいにとり慶賀すべき次第であります。かく、神の恩寵により、当国は平穩にすごしております。

このほか、とりわけて申し上げることは、ございませぬ。尊台に神のご加護がありますように。

故 Almorò の息 Andrea Venier

次に、この書簡の裏面には、その左半分上部に、Andrea Venier の手による宛名が誌されおり、左下端には Damasco の文字が、中央下部左よりには、Venier の商標が加えられている。

裏面の右半分は、受取人である Da Pesaro の手蹟によって、この書簡を受領した際の覚え書が記入されている。墨痕鮮やかに、肉太の雄勁な文字が達筆で一気に認められているが、その訳文は、次の通りである。

当書状 Beruto 往復 Galee 船被托 1390年12月25日落掌
在 Damasco Andrea Venier 氏取引口座に関する件

3. 考 察

第4十字軍よりおよそ200年、黄金時代にあった Venezia 共和国の繁栄と、その背景となった都市貴族の抬頭、広大な後背地と交易圏、さらには東西交易の中介者として中世以来果しきたった役割等については、いまさらにあげつらうことは必要がなかろう。Galee 船団の往復、輸出商品としての布地類と輸入商品の大宗たる香辛料類について、交易基地としての Beirut や Damasco の地位、Bagdad よりの隊商に対する依存度、Islam 勢力圏との共存関係、など、この書簡の記事より窺うことのできるものがらについても、特別に目新しいものがあるわけではない。ただしかし、従来の知見に対して、確実なるひとつの傍証を加えて得る資料であることは、それなりに評価すべきであろう。

むしろ、筆者には、保存状態のきわめて良好なこの14世紀の書簡の、形状と様式とに対して、示唆を受けるところが多かったのであり、簡単にその要点を列挙するならば、以下の如くである：

- (1) 書信用紙の規格は、現代のものと近似しているが、紙質・筆記用具・書字の方法（文字と言語の構成といった根本問題はもとよりであるが）を超えた、いわば人間工学的な原因が存在するのではないか？ 少なくとも、紙の使用が比較的容易となった時代以降についての、書信用紙の寸法と形状、および、その異同・変遷について、さらに広汎な調査が必要であろうこと。

- (2) 欧米における書簡文の形式は、中世以来確立されたものであり、今

日の **Handwriting** による個人書信の良質なものは、(西欧の読書人には、独自の風格と個性を備えながらも実に読解の容易な手蹟を有する例が多い。)こうした伝統に支えられていることを改めて認識したが、本書簡はここに、その好箇の事例を示しているということ。

- (3) **Typewriting** による今日の **Business Letter** における **Letter Style** との関係について——**Letter Body** の各 **Paragraph** の **First Line** を **Indent** することなく、左端を揃えて書く、いわゆる **Block Style** は、“従来の伝統的あるいは保守的な **Indented Style** に代わり、その超克として登場した現代風な **Style** である、” というのが、近事、一般に行われている説明である。たしかに、**Typewriter** が実用化されて、あまねく **Office** に導入された 20 世紀前半を考えれば、たしかに事情はその通りであったろうが、いますこしく視点を遠く取るならば、600 年前 **Venezia** 共和国に行われた書簡様式が、いみじくもそこに復活したという観察もまた可能なのではあるまいか、ということ。

- (4) 今日の **Business Writing** における **Paragraphing** の理論は、すくなくとも、こと **Letter** に関する限りは、次のように考えられることが多い：“10行を越えるような **Long Paragraph** は作らないこと、これは読み易さのためである。従って、必ずしも文意による段落とは一致しなくともよい：すなわち、ひとつの **Item** が成り行き上、ふたつの **Paragraph** にまたがっても、あえて妨げとしない。”と。

これは主として、口述による書信を秘書が **Transcribe** するという、いわゆる **Audio Typing** が一般化してきたことから、事務能率向上のための、ひとつの妥協として唱えられているにちがいないのであるが、これまた、14世紀の書簡においても、まさにこの流儀の通りに実行されていた事実を知ること。

(5) 後日必要ある場合の照合に備えての、書信の保存と整理にはじまる文書管理の技術は、簿記・会計の実務と同じく、中世以降の地中海沿岸地方にその発祥の地を持つことはたしかであろう。すくなくとも、この書簡に見られる受信者の覚え書記入は、その一証左たり得るが、これが今日の **Letter Filing** や **Record Keeping** の **System** とは、どのような系譜をもって結ばれているのであろうか？ これまた、ひとつの興味ある問題ではないかということ。

(6) 最後に、この書簡に荷せられた情報量の問題である。熟練した **Handwriting** による筆字は、よく今日の **Typewriting** に劣らぬ字数を収めており、本来の目的であった商業通信としての役割を十分に果たしたにちがいない。しかも、600年の後に海を超えて新大陸に伝えられ、後世学究の徒の研究資料となるばかりか、偶然の機縁に、これを手にした遠来東方の一学徒をして、さながらに署名者の風韻を偲ばしめるていの感動をも与え得たとするならば、かかる文字通り手作りのメディアも、なかなか捨て難きものにちがいないということ。

いささか、はじめに意図した“資料紹介”の域を脱する蛇足を加えたきらいがあるけれども、この段は、なにとぞお許しを乞うとともに、謹しんで大方のご教示を願う次第である。